

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	33
施設名	葛飾区道上保育園
施設所在地	葛飾区亀有4-24-11
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

- ・かたつむりやかぶとむしの飼育
- ・冬野菜の水やりや栽培

<テーマの設定理由>

普段の保育の中で虫探しに夢中になったり、絵本を読んだり、この種を植えたらどうなるのか疑問を持ったりと、自然事象に興味があったので、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・R7年5月：テーマ決定
- ・R7年5月～：必要物品検討、実施準備
もらったカブトムシの幼虫がさなぎになり、観察開始。
- ・R7年6月：さなぎが成虫になり、ゼリーのえさやりが始まる。
- ・R8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもたちがキャベツや人参の皮、昆虫ゼリーを与えやすいように当番表を作成する。
- ・細部まで観察できるように虫めがねや飼育ケースを準備し、いつでも好きな時間に使用できるようにする。当番を終えたら表にシールを貼る。

～道具～

飼育ケース、昆虫マット、コバエ除け、虫メガネ、昆虫ゼリー、止まり木など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

R7年4月～：園庭で虫探しを楽しむ。見つけたかたつむりを飼育ケースに入れる。給食室にえさになる野菜をもらいに行き、与える。

R7年5月～：カブトムシの幼虫がサナギになり、観察する。

R7年6月：サナギが成虫になり、観察開始、ゼリーのえさやり。飼育ケースから出して実際に触れてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・カブトムシの幼虫、かたつむりの飼育では当番になると友達を誘い調理室へ餌をもらいに行ったり、進んで世話をする姿が見られた。

4歳児クラスではカブトムシはメスだったが、5歳児クラスではオス、またヘラクレスオオカブトも飼育しており、友だちと一緒に見比べ、違いに気付いた。「何で死んじゃったんだろう。」「カタツムリの卵から赤ちゃん生まれてる。」と命と向き合えた。

・飼育していたカブトムシが成虫になったので、引き続き観察、飼育をしていく。（霧吹き、ゼリーの交換、糞の掃除など）カブトムシが動かなかったり、ゼリーが減っていないと心配そうに、見守っていた。

・虫メガネを使って細かい部分まで観察して観察画を描いたり、図鑑と見比べて違いを発見し、子ども同士で報告しあう姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

飼育を続けていくことで、興味を持つ子が増えて、友達とのやり取りが活発になり、図鑑で調べるなど主体的な姿が見られ、うれしく感じた。また、小さな変化に気づき、子どもならではの視点の鋭さに驚かされたり、感心させられることが多かった。小さい虫は自然の中だからこそ、自分で餌を探して生きていけるけれど、人が飼育ケースに入れた場合は、餌となる葉を入れてもだんだんと弱って死んでしまうことも学べた。そんな経験を通して、自然に戻してあげる大切さも知った。